

ISO14001 新規格研修会

2016年は、ISO関連のマネジメントシステム規格にとって、新たな展開の年となりました。

昨年、2004年版が規格改定され、新規格改訂に移行しております。

この新規格改訂は、トップマネジメントの役割が強化され、本物のマネジメントシステムに近づけ、【組織の意図した成果を達成するのに有効な仕組みとは何か！】を考えて、それぞれの組織がリスクを考慮した仕組みの構築を求めて改訂されました。

協会として、環境対応とISOシステムを改善する視点から、改訂の概要、移行・マニュアル変更のポイントを詳細に判り易く解説することを企図した研修会を開催しました。

開催日時	平成28年7月19日(火) 13時30分～16時45分	【当日の講義風景】
場所	コラボしが21 研修室	
講師	CEAR環境マネジメント主任審査員 岸 孝雄氏	
参加者	11名	
内容	「新規格の解説と移行・マニュアル変更のノウハウ」 ・2015年版改訂の共通ポイント(14001,9001) ・改訂のポイント(14001)	

【事務局のコメント】

講師からまず冒頭に、改訂のポイントとしてマネジメントシステム規格の共通の説明があり、今後、複数のマネジメントシステム(例えば、品質、環境、情報セキュリティ)を実施している組織がそれらをよりよく統合し、より効果的かつ効果的に実施できるようになることが期待されるとの話からはじまりました。

そして改訂のポイントとして

- ①戦略的な環境管理として組織の戦略的計画プロセスにおける環境管理の重要性が増していることから、EMSとして組織の状況の理解に関する新しい要求事項が取り入れられている
- ②環境マネジメントシステム(EMS)の成功を確実にするために、リーダーシップの役割(経営者の責任)が、強化されている。
- ③“環境の保護”は定義されていないが、環境の保護が、汚染の予防、持続可能な資源の利用、気候変動の緩和及び気候変動への適応、生物多様性及び生態系の保護等を含み得るという注記が入っている。
- ④EMSに関連する利害関係者として、サプライチェーン(製品の原材料～最終処分)を含めて、組織は、自らが管理する及び影響を及ぼす範囲を、製品の使用及び使用後の処理又は廃棄に関連する環境影響にまで拡張する必要がある。
- ⑥外部及び内部コミュニケーションの双方に、コミュニケーション戦略の策定が追加。
具体的には関連会社、グループ会社は、資本関係、意思決定の関連性があれば「組織」である。

そのほか、日本語の文言(翻訳)に疑問を感じたら付属書SLを参考にする、それでもわからなければ原文の英語版をみて判断する。

たとえば 6.2.1 環境目標 の翻訳は

組織は、組織の著しい環境側面及び関連する順守義務を**考慮に入れ**、かつ、リスク及び機会を**考慮し**、関連する機能及び階層において、環境目標を確立しなければならない。

考慮する(consider)・・・除外することができる

考慮に入れる(take into account)・・・除外できない

の違いあるから特に注意しなければならない。・・・など日常でも見落としそうな点など詳細に判り易く説明してもらいましたので、時のたつのも忘れて、もう少し、時間が欲しいかなという気がしました。